

第3回 藤沢駅南口駅前広場等あり方検討会議 議事要旨

■日 時：2018年（平成30年）2月15日（木）午前10時00分から午前12時00分まで

■場 所：藤沢市役所本庁舎 8階 8-1 会議室
（神奈川県藤沢市朝日町1-1）

■出席者（敬称略、50音順）

会 長：柳沢厚

副会長：岡村敏之

委 員：相澤光春、浅井了之、石井博之、岩本大志、上田敬生、大矢卓嗣、川崎隆之、
川路和久、北村和利、幸嶋規之、小林寿美恵、佐藤大作、嶋田勝弘、竹村裕幸、
土井浩司、長瀬輝行、西村靖生、林正之、三上雅之、山田秀幸、渡部直樹

事務局：藤沢市 都市整備部 藤沢駅周辺地区整備担当、株式会社日建設計

講演者：株式会社山手総合計画研究所 代表取締役 菅孝能先生

■議事次第

1. 開 会

2. 議 題

（1）アンケート調査結果について

（2）これまでの意見まとめと南口駅前広場再整備の方向性

（3）駅前広場空間に関する講演

テーマ「駅は街の玄関 駅前広場は街の大広間・応接室」

（4）意見交換

3. その他

■議事概要：

○昨年11月に実施した「藤沢駅南口駅前広場」及び「地下道」に関する調査結果の報告を行った後、これまでの意見まとめとして、「第1回の意見まとめ」「ワークショップのまとめ」「アンケートの意見まとめ」を説明し、南口駅前広場再整備の方向性を説明した。その後、株式会社山手総合計画研究所の菅孝能先生から、今後駅前広場の方向性について議論していく際の視点を、事例を交えてご講演いただいた。アンケート調査結果やこれまでの意見まとめ、南口駅前広場再整備の方向性や、菅先生の講演を踏まえ、意見交換を行った。

意見交換の概要は次のとおりである。

<特色について>

- ▶ 藤沢ならではの「魅力」だけでなく、「特色」を取り入れた空間づくりと変えるべきではないか。また、藤沢の特色・魅力としては「開放感・開放性」といったものがキーワードになる。

<発信力について>

- ▶ “藤沢”を強調しすぎても発信力が弱いため、江の島や湘南といったキーワードが必要になる。

<特色の取り入れ方について>

- ▶ 海を「特色」として、ヨットの形をした街灯を駅前に作るようなことはやめるべきである。「特色」として海を取り入れるとしても、JRの小田原駅のような開放感のある屋根を設け、一体的な駅と駅前広場となる取り入れ方をすべき。

<交通の需要と回遊性について>

- ▶ 南口駅前広場は交通の需要に対して十分な広さはないと思う。回遊性を考えるときに、駅前広場を取り巻くビルでいかに歩行空間を用意し、そこに魅力を持たせ、人が動き回る仕掛けが必要である。

<地下通路へのスロープの可能性について>

- ▶ 現在地下通路へ接続しているスロープ状の斜面は、野外劇場のような空間として人々に活用される可能性があり、391 街区で検討されている再開発と併せて検討する必要がある。

<観光に対する考え方について>

- ▶ 観光を目指した駅前広場づくりを目指す前にまずは、市民にとって魅力的な駅前広場をつくることが重要である。